

追悼の辞

本学経営学部教授で会計学を担当されておりました大塚裕史さんは2010年（平成22）4月4日、まさに春爛漫の季節に黄泉の国に旅立たれました。享年50歳であまりにも突然で、早世な悲報に我々は返す言葉もありませんでした。ご家族の悲しみ、嘆きはいくばかりかとお察し申し上げます。経営学部の学術機関誌である『経営志林』が本号で追悼号を発行することになりましたので、生前とくに親しくしていただいた者として大塚さんの一端を述べさせていただきます。

大塚さんは1959年に福島市に誕生されました。1978年に県立福島高等学校を卒業され、福島大学経済学部に進学されました。そこで会計学の教授であった相良勝利先生との出会いがその後の進路を決定づけたようです。そして同大学を卒業後、東北大学大学院経済学研究科に進学され、現在は東北大学名誉教授である豊島義一先生の指導を受け、研究者としての道を歩まれることとなりました。

大塚さんは東北大学大学院の博士課程の単位を取得後、いわき短期大学の専任講師となられ、1989年に石巻専修大学に移られております。そして1997年に東北大学で博士号を取得され、2003年に法政大学経営学部教授として赴任され、7年間にわたって学部および大学院で指導にあたられました。とくに、社会人大学院での授業は高い評価を受けておりました。

大塚さんの専門分野は企業における原価計算と管理会計ですが、研究の関心は予算管理にありました。そしてこの分野における研究の結実したものが1998年に出版された「参加型予算管理研究」（同文館）であり、博士論文になっております。

この著書では予算管理システムにおける参加予算が中心になっていますが、実態調査から行動科学的アプローチとコンティンジェンシー・アプローチの二面性があることを詳細な文献研究から明らかにし、前者は1980年代まででとどまっていると述べています。とくに注目されるのは、1994年に実施された「予算編成における管理者の参加の実態と機能に関する調査」の内容が示されていることであります。そこでは、組織階層別の参加の程度が明らかにされており、わが国では初めての試みであります。

大塚さんと私とでは20歳の年齢差がありますが、専門領域が同じで、かつ二人とも福島県出身ということもあり、かなり古くから学会では顔なじみでした。それは法政大学に来られてからいっそう強くなり、学問について有意義な議論を重ねることができました。大塚さんは東北人らしく朴訥で、謹厳実直という言葉がぴったり合うような人でした。研究の面からいえば、これからが脂が乗って集大成へと向かう時期にありました。研究途中で病に倒れ、このようなことになって本人はさぞかし無念だったと思います。私達はこれからもありし日の大塚さんを忘れることはないでしょう。